



炭素回収・貯留政策指数(CCS-PI)

当インスティテュートは、CCSに関して国内の行動を喚起するために、国の政策支援レベルを比較し、複合指数を導出する分析フレームワークを策定した。

当インスティテュートが CCS 政策指数 (CCS-PI) を適用した結果、以下が確認された。

- CCS 実証における政策のリーダーシップは、オーストラリア、カナダ、オランダ、ノルウェー、英国、米国の維持し続けている。
- 中国もまた、今後の中期的な CCS 開発の世界的な成功に大きな影響を与える立場を保っている。
- インド、インドネシア、ロシアなどの国々は、CCS をさらに支援するよう政策環境を改善することによって、貢献度を高めることができるだろう。

先進国・発展途上国いずれにおいても CCS 主要国の増加は、CCS の開発を促進することにより各国の国益に繋がるはずである。それは、(排出量をコントロールすることにより) 気候変動への影響リスクを軽減し、(エネルギーアクセスと安全保障の観点から) 化石燃料の生産・使用への継続的信頼を確立し、可採年数が長く経済性のあるエネルギー資源への潜在的な障壁を取り除くことができるからである。

複合指数 (CCS-PI) には、2つの指数 (CCS 関心度指数と政策構成指数) により構成される。これらの指数は順に、優先指数 (化石燃料の生産量、化石燃料の消費量、採用、実証、および展開)、サブ指数 (石油、ガス、石炭、包括性、妥当性)、それに変数 (政策手段) によって構成されている。集約されたこれらの指数により、CCS の実証や展開に対する国の政策支援の相対的レベルが比較可能となる。その構成は、可能性が高い将来の政策の潜在性ではなく、主に現行政策を探るようアプローチしている (しかし考察は双方に対して提供される)。

国は指数得点に応じて各層のいずれかに分類される。上層 (得られた指数得点が上位 10 パーセント)、中層上位 (指数得点が 50~90 パーセント)、中層低位 (指数得点が 10~50 パーセント) または低層 (指数得点が下位 10 パーセント)。各層は、検討対象国グループと比較した一国の指数得点を示している。

複合指数 (CCS-PI) は、CCS 活動に関する国内政策設

定について、非政治的な代数により表現されている。

CCS-PI のように指標化することの利点は、結果は絶対的ではないものの、国々の相対的な立場や、時間の経過に伴う変化・その要因についてよく理解できることである。CCS-PI において CCS 関連政策は不可欠な要素であるが、世界の CCS 関連政策を見ると、CCS に対する政策支援が限定的であり、環境関連政策との間には明白かつ拡大する格差が存在するのは明らかである。

CCS-PI の結果

CCS-PI の初期結果は X 軸 (政策構成指数) と Y 軸 (CCS 関心度指数) により構成される図において示される (図 1 参照)。

「CCS 関心度指数」は、世界に占める化石燃料の生産量と消費量の割合をベースとする相対指数である。これは、(他にも多くの方法はあるものの) 世界的な CCS の発展に寄与する政策を導入する可能性のある国を示す指数である。

エリア 1 に位置する国々は、CCS 関心度レベルが比較的 low、通常、CCS の政策環境は初期段階の技術実証を反映したものとなっている。一部の国は、大規模な統合プロジェクト (LSIP) 活動など、今後の展開準備につながる CCS 活動を実施している。エリア 1 の国々は、技術的・財政的条件が整った場合には、CCS ソリューションの能力強化を将来の政策活動に含める可能性がある。

エリア 2 及びエリア 4 に位置する国々は、CCS 活動を支援する可能性の高い政策環境を持っている。これらの国々は、化石燃料の利用を続けるための持続可能な環境を整える、大規模削減を実現する、低炭素社会への移行を低コストで実現する、といった観点において、CCS の持つ将来的な利点を活かすべく、自国の戦略的立場を表明している。エリア 4 に位置する国々は、将来の CCS の展開において中期的に最も大きな影響力を持ち続ける可能性が非常に高い。

エリア2に位置する国々は、必ずしもエリア4に位置する国々と同じ政策決定を持っていない。そのため、それらの国は国内のCCS実証プロジェクトの進展を妨げる傾向がある制度・市場の障害を除去しようとしている。より透明性が高く、非差別的かつ市場原理に基づく政策を導入することにより、成熟したCCS産業に対する民間投資を呼び込むことによって、エリア4の国々はCCSのビジネス展開を加速する適切な政策を検討するようになるかもしれない。

エリア3に位置する国々はCCS関心度指数は比較的高いレベルにあるが、政策環境は比較的未熟である。CCSが低炭素社会へ向けた重要な要素であると認識された場合、新たな政策対応により追加・(and/or)新規の資源配分を必要とすることにはならない。

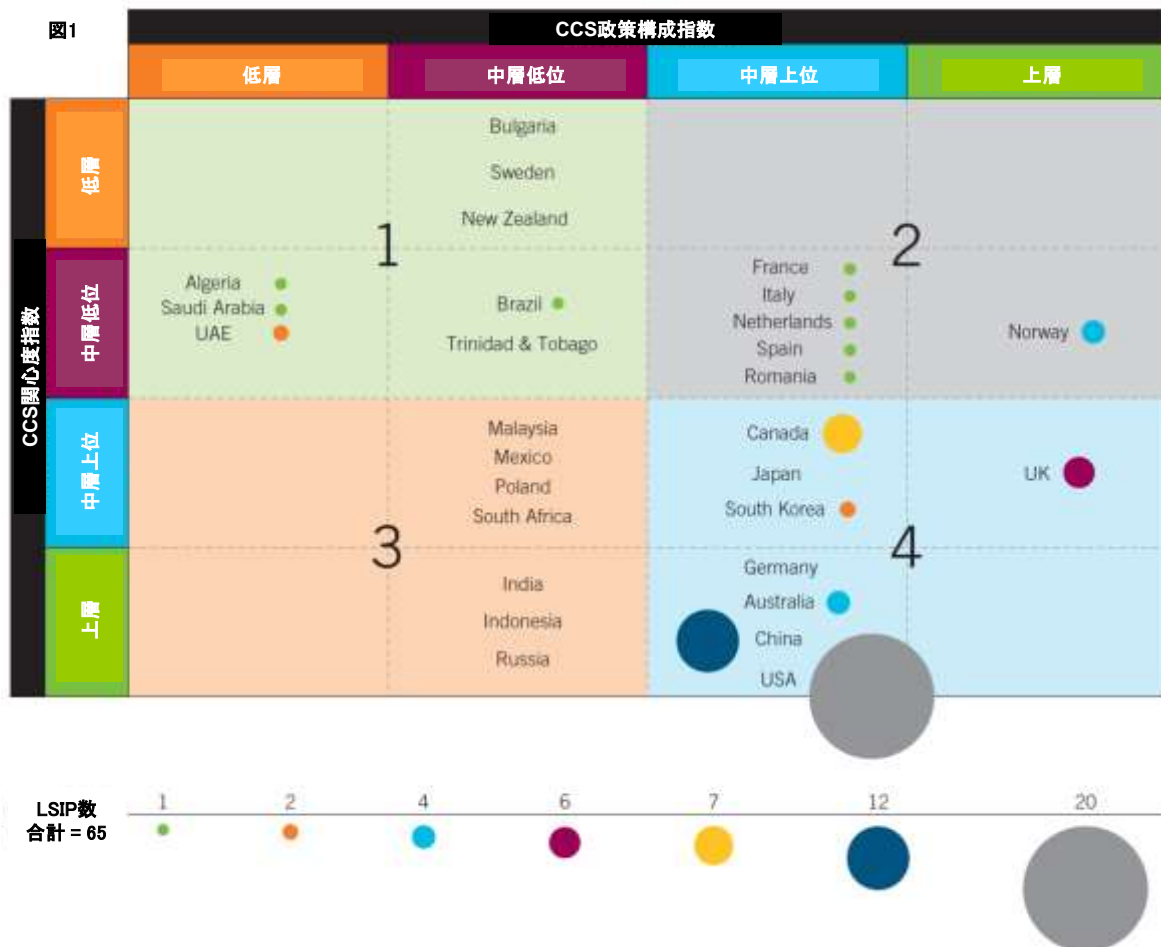
これらの国の多くは、CCS技術チェーンの初期段階に

重点を置いている傾向にあり、すでに他の国々(特にエリア2と4の国々)の国際的な努力によって成された多くの波及効果から大きな恩恵を受けるだろう。

このように、エリア3の多くの国々のために強化された政策行動には、人材育成の努力と組織強化(規制の枠組み作り)が含まれることがある。

本インスティテュートは、CCSを支持する特定の政策または他のクリーンエネルギー政策について主張、反論はせず、気候変動に対する取り組みに不可欠であると考えられるあらゆる大規模削減政策について、公平に政策の取り扱いを議論する。

1 グローバルCCSインスティテュート、CCSの世界の現状:2013レポート 付録C



お問い合わせは、

GLOBALCCSINSTITUTE.COM、または電子メールでINFO@GLOBALCCSINSTITUTE.COMまで

© Global Carbon Capture and Storage Institute Ltd 2015

この出版物は知識共有の目的でグローバルCCSインスティテュートが刊行したものです。もし当翻訳の一部が出典元と差異があった場合は、出典元に拠ります。